
何かの出入り口

二階藤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何かの出入り口

【Nコード】

N6959F

【作者名】

二階藤

【あらすじ】

物事を始めるときには、意識していなくても何かの入り口を通り、そして何かの出口を目指している。必ずしも、出口であるとも限らないけど…。

はじめは好奇心が強かった。

だから、長く続けていたことも案外あっさりと捨てる事もできた。

新しいことをはじめるって言うことはそういうものだ。

始めて最初のうちは比較的順調に思える時間が過ぎる。

少なくとも、わからないことが多いから、少しずつ理解していけばいいだけのだから。

そして、時間がたつて、自分が入ってきた入り口が遠くになったと思いはじめたときに、

自分の進んでいる道が突如としてわからなくなる。

入り口に戻ろうにも、すでに遠くになつてしまっている…手は届かない。

自分の足元もわからない。

だから、もがこうにももがくこともできない…停滞することもできない。

しかし、それでも時間は進んで行く。

ふと、足元に地面が見えてきて、足が地に着いた感覚を得る。

自分が進んでいる場所がどこなのか、どこに向かっているのか…入り口はどこへ行ってしまったのか…。

それは全くわからなくなつてしまっているが、それでも足場が出来上がっていた。

前も後ろもわからないが、とにかく進むしかなくなる。

どれくらい進んだか全くわからなくなつたところに、出口らしいものが見えてくる。

この出口がどこかに向かう入り口なのか、それとも、現状のまま先に進むための入り口なのかわからないが、

結局どこかに繋がる入り口であるということだけは間違いない。

入り口を得るために、どれだけのものを失ってきたのか。

出口にたどり着くために何を得て、そして何を失ってきたのか…。

道中を見返すことができればそれもきつと可能なのかもしれない。

しかし、ここに入ってきた入り口は何処へと消えてしまっている…。

探す術はあるかもしれないし、時間もきつとあるはずだ。

探すことは自由だが、探さないこともまた自由…。

探さない道を選び、ただ目の前に用意された入り口とも出口ともわからない場所に飛び込むのもまた自由。

後ろからは二つの声が聞こえる。

「ここにはいないほうがいい」という声と、

「ここから出て行く準備をきちんとしてから行け」という声だ。

結局、どっちの声も先へ進むべきことを教えてくれている。

時期は今すぐなのか、もう少し先なのか…。

時期が絶望的にずれてしまえば、この出入り口ともつかないモノは消えてしまうだろう。

消えてしまった場合は…きつと、これとは違う出入り口を探すことになる。

足場の見えない道を進むことになるだろう。

後ろも先も見えない道を進むことにもなるだろう。

出入り口が現れるタイミングはきつと人それぞれが決めるのだろう…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6959f/>

何かの出入り口

2011年1月27日14時06分発行